

競 技 要 項

【 総 則 】

- 1 競技は本年度各競技協会・連盟及び（公財）日本中学校体育連盟の各競技部が定める規則に準じて行う。
- 2 合同チームの編成については、四国中学校体育連盟「複数校合同チーム編成規程」に則る。
- 3 引率者及び監督

- (1) 引率者及び監督は、出場校の校長・教員・部活動指導員とする。
- (2) 大会では、外部指導者（コーチ）をおくことができる。外部指導者（コーチ）は、出場校の校長が認めた者とし、必ず外部指導者（コーチ）証【各県で使用の物】を身に付けること。また、次の二点を遵守すること。

- ① 当該校以外の中学校教職員は、外部指導者（コーチ）になれない。
- ② 同一人が複数校の外部指導者（コーチ）になれない。

【水泳競技・体操競技・新体操・卓球を除く。】

4 個人情報の取扱い（利用目的）

大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、四国中学校体育連盟個人情報保護方針・規程に基づき、取得する個人情報について適正に取り扱う。また、取得した個人情報は、競技大会の資格審査・競技大会運営上必要なプログラム編成及び作成・ホームページ・掲示板・報道発表・記録発表（記録集）等、その他競技運営及び競技に必要な連絡等に利用する。大会に参加する各選手は、これに同意する。

5 組合せ

- (1) 団体戦は、県代表1チームについてはフリー抽選。県代表2チーム以上の競技は、左右のゾーンに振り分ける。また、各県の1位が1回戦で対戦しないように配慮する。
- (2) 個人戦は、各県の個人順位または、強い順によりゾーン配分して組み合わせる。
- (3) 申込書には必ず順位を明記すること。

6 参加料

参加選手一人につき2,000円とする。（マネージャーを除く。）

7 備 考

- (1) 各競技本部は、環境状況（気温、湿度、風速、輻射熱等）を十分に把握し、適宜水分補給、休憩等をとるようにすること。

【環境省熱中症予防情報サイト】

URL <http://www.wbgt.env.go.jp/>

- (2) 各競技本部は、自然災害等による事故防止のため、常に最新の気象情報の収集に努め、活動途中の降雨及び落雷等の気象の変化に対しては、選手等の健康及び安全面を最優先し、各県大会本部と協議の上、適切な措置を講じること。

徳島地方气象台 : TEL 088-656-9549

URL <http://www.jma-net.go.jp/tokushima/>

高松地方气象台 : TEL 087-867-6112

URL <http://www.jma-net.go.jp/takamatsu/>

松山地方气象台 : TEL 089-941-6293

URL <http://www.jma-net.go.jp/matsuyama/>

高知地方气象台 : TEL 088-822-8883

URL <http://www.jma-net.go.jp/kochi/>

- (3) 屋外競技については、落雷の予兆があった場合は、速やかに活動を中止し、危険性がなくなると判断されるまで安全な場所に避難するなど、選手の安全確保を最優先事項として常に留意すること。

【陸上競技】

1 参加規程

(1) 種目

男子 (18 種目) 学年種目：1 年 100m・2 年 100m・3 年 100m
1 年 1500m・2 年 1500m・3 年 1500m

共通種目：200m・400m・800m・3000m・110mH・4×100m リレー
走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳・砲丸投・四種競技

女子 (14 種目) 学年種目：1 年 100m・2 年 100m・3 年 100m
1 年 1500m・2 年 1500m・3 年 1500m

共通種目：200m・800m・100mH・4×100m リレー
走高跳・走幅跳・砲丸投・四種競技

(2) 資格

各県 1 種目 4 名とする。ただし、リレーは各県 2 チームとする。

(3) 制限

1 人の出場は 2 種目以内とする。ただし、リレーは除く。

2 競技規則

(1) 競走競技の予選通過は、各組 3 着 + 2 とする。

ただし、1500m・3000m は、予選を行わず 16 名で決勝を行う。

(2) 得点は、1 位 8 点・…・8 位 1 点とし、学校対抗とする。

(3) ナンバーカードは、各県に配番された番号を明記し、各県で準備する。

香川 (オリーブ) 1～150 徳島 (イエロー) 201～350

高知 (ピンク) 401～550 愛媛 (オレンジ) 601～750



- ↑ ※ ナンバーカードの割り振りは、男子から行い、男女込みの通し番号とする。
- 20 ※ ナンバーカード下部に県名を入れる。
- cm ※ ナンバーカードは、胸と背に確実に付けること。ただし、跳躍種目については、胸か背のいずれかでよい。
- ↓

← 25cm →

(4) スパイクのピンは、全天候用の 9 mm 以下とする。(走高跳は 12 mm 以下)

(5) 招集所において、競技で使用するシューズの靴底の厚さを計測する。世界陸上競技連盟 (WA) 規則第 143 条 (テクニカルルール第 5 条=TR5) を確認し、規定内のシューズを履いて出場すること。規定外のシューズを履いて出場することはできない。

(6) 申込は、各県委員長がとりまとめ、申込一覧表 (様式 A) と学校別申込表 (様式 B) 及び県中学 (最高) 記録一覧表 (様式 C) をそろえて、開催県委員長に申し込むこと。

3 競技方法

学校対抗及び種目別選手権

4 競技日程

〈第1日目〉

トラック競技				
No	性別	種目		時刻
1	女	800m	予選	13:00
2	男	800m	予選	13:20
3	女	四種100mH	2組	13:50
4	男	四種110mH	2組	14:10
5	女	200m	予選	14:30
6	男	200m	予選	14:45
7	女	1年1500m	決勝	15:00
8	男	1年1500m	決勝	15:15
9	男	3000m	決勝	15:30
10	女	200m	決勝	15:50
11	男	200m	決勝	16:00
12	女	800m	決勝	16:10
13	男	800m	決勝	16:20

フィールド競技				
No	性別	種目		時刻
1	男	走高跳	決勝	13:00
2	女	走幅跳	決勝	13:00
3	女	砲丸投	決勝	13:00
4	女	四種走高跳		15:00
5	男	走幅跳	決勝	15:00
6	男	四種砲丸投		15:30

開会式	実施しない
-----	-------

〈第2日目〉

トラック競技				
No	性別	種目		時刻
1	女	100mH	予選	9:30
2	男	110mH	予選	9:45
3	男	400m	予選	10:10
4	女	1年100m	予選	10:25
5	女	2年100m	予選	10:35
6	女	3年100m	予選	10:45
7	男	1年100m	予選	10:55
8	男	2年100m	予選	11:05
9	男	3年100m	予選	11:15
10	女	100mH	決勝	11:30
11	男	110mH	決勝	11:40
12	女	1年100m	決勝	11:50
13	女	2年100m	決勝	12:00
14	女	3年100m	決勝	12:10
15	男	1年100m	決勝	12:20
16	男	2年100m	決勝	12:30
17	男	3年100m	決勝	12:40
18	女	四種200m	2組	12:50
19	男	四種400m	2組	13:00
20	男	400m	決勝	13:10
21	女	2年1500m	決勝	13:30
22	女	3年1500m	決勝	13:40
23	男	2年1500m	決勝	13:50
24	男	3年1500m	決勝	14:00
25	女	4×100mR	決勝	14:20
26	男	4×100mR	決勝	14:30

フィールド競技				
No	性別	種目		時刻
1	男	四種走高跳		9:30
2	女	四種砲丸投		9:30
3	男	棒高跳	決勝	10:00
4	女	走高跳	決勝	11:30
5	男	三段跳	決勝	12:00
6	男	砲丸投	決勝	12:00

閉会式	実施しない
-----	-------

【水 泳 競 技】

1 参加規程

(1) 種 目

種 目	男 子	女 子
自 由 形	50 100 200 400 1500	50 100 200 400 800
平 泳 ぎ	100 200	100 200
バタフライ	100 200	100 200
背 泳 ぎ	100 200	100 200
個人メドレー	200 400	200 400
メドレーリレー	4×100	4×100
リ レ ー	4×100	4×100

(2) 資 格

各県1種目2名，リレーは2チームとする。

(3) 制 限

1種目2名，1人2種目以内。ただし，リレーは除く。

2 競技規則

(1) 2021年(公財)日本水泳連盟競技規則に準ずる。

(2) レースは，すべて決勝とする。

(3) スタートは，1回とする。

(4) 優勝校の決定法

各種目ごとに1位8点・2位7点・3位6点……8位1点（ただし，リレー種目は，1位16点・2位14点・3位12点……8位2点）とし，得点の順にしたがって決定する。
総合得点と同じ場合は，次の順にしたがって決定する。

- ① リレーによる得点の多い学校
- ② 入賞者の多い学校（ただし，リレーは4人とする。）
- ③ 1位の数の多い学校
- ④ 2位の数の多い学校（以下，3位・4位……の順で）

3 競技方法

学校対抗及び種目別選手権

4 競技日程

				開 会 式	実施しない
1	女 子	400m	個人メドレー	決 勝	9 : 20
2	男 子	400m	個人メドレー	決 勝	
3	女 子	800m	自 由 形	決 勝	9 : 40
4	男 子	1500m	自 由 形	決 勝	9 : 55
5	女 子	50m	自 由 形	決 勝	10 : 20
6	男 子	50m	自 由 形	決 勝	
7	女 子	200m	自 由 形	決 勝	10 : 30
8	男 子	200m	自 由 形	決 勝	
9	女 子	200m	バタフライ	決 勝	10 : 45
10	男 子	200m	バタフライ	決 勝	
11	女 子	200m	背 泳 ぎ	決 勝	11 : 00
12	男 子	200m	背 泳 ぎ	決 勝	
13	女 子	200m	平 泳 ぎ	決 勝	11 : 15
14	男 子	200m	平 泳 ぎ	決 勝	
15	女 子	4 × 100m	リ レ ー	決 勝	11 : 40
16	男 子	4 × 100m	リ レ ー	決 勝	

【昼 食】

17	女 子	100m	バタフライ	決 勝	12 : 50
18	男 子	100m	バタフライ	決 勝	
19	女 子	100m	自 由 形	決 勝	13 : 00
20	男 子	100m	自 由 形	決 勝	
21	女 子	100m	背 泳 ぎ	決 勝	13 : 10
22	男 子	100m	背 泳 ぎ	決 勝	
23	女 子	100m	平 泳 ぎ	決 勝	13 : 20
24	男 子	100m	平 泳 ぎ	決 勝	
25	女 子	200m	個人メドレー	決 勝	13 : 30
26	男 子	200m	個人メドレー	決 勝	
27	女 子	400m	自 由 形	決 勝	13 : 45
28	男 子	400m	自 由 形	決 勝	
29	女 子	4 × 100m	メドレーリレー	決 勝	14 : 20
30	男 子	4 × 100m	メドレーリレー	決 勝	

閉 会 式

実施しない

【バスケットボール】

1 参加規程

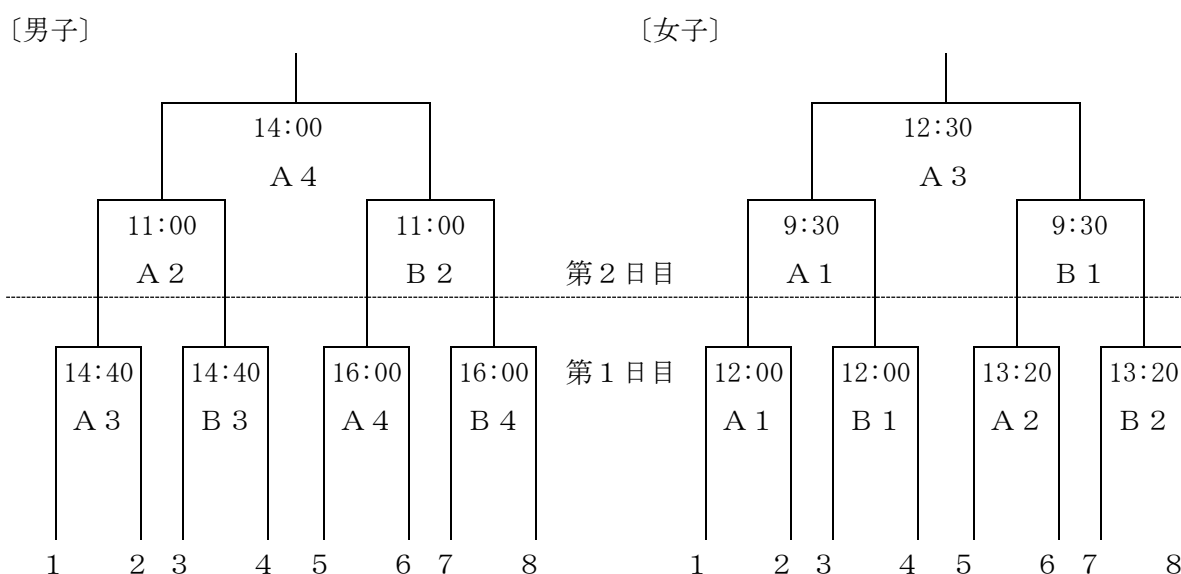
各県男女各2チームとする。

2 競技規則

- (1) 2021年度施行の競技規則〔(公財)日本バスケットボール協会〕による。
- (2) ベンチは組合せ番号の小さいチームが、コートからオフィシャル席に向かって右側とする。
- (3) メンバー表の提出は必要ない。ただし、メンバーの変更がある場合は、「変更届」を監督会議で提出する。
- (4) ユニフォームの色は、組合せ番号の小さいチームが淡色を着用する。2020年4月から施行されている(2020年11月11日更新)JBAユニフォーム規則に従い、ユニフォームの番号は「0から99・00」までのいずれかの番号のものを着用すること。
- (5) 前のゲームのハーフタイムでは、次のゲームのチームが3分前まで練習をしてもよい。
- (6) ベンチに入れる者は、登録された選手15名以内と、引率責任者1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名の合計19名以内とする。
 - ① コーチは、出場校の校長・教員(非常勤講師は除く)とする。
 - ② アシスタントコーチ(Aコーチ)は、校長の認めた者とする。
 - ③ マネージャーは、出場校の教員または生徒とする。
- (7) マンツーマン推進の精神に則り、ゾーンディフェンスは禁止とする。なお、最新版の推進関連規定(2021年4月1日版)を適用する。

3 競技方法

- (1) トーナメント方式とする。3位決定戦は行わない。
- (2) 組合せ



4 その他

- (1) フロアでの給水は、スクイズボトルとする。

【サ ッ カ ー】

1 参加規程

各県2チームとする。

(公財)日本サッカー協会の女子加盟チーム選手は、在籍中学校の生徒であれば、移籍を行うことなく、本大会に参加することができる。

2 競技規則

(1) (公財)日本サッカー協会の「サッカー競技規則(当該年度)」による。

(2) 選手登録は18名とし、試合開始前に最大限7名までの交替要員の氏名を主審に通告しておき、交替要員全員が、主審の許可を得て交替することができる。(一度退いた競技者は再び出場することはできない。)

※ 登録(申込書)に変更がある場合は、監督会議にて「変更届」を16部提出すること。

(3) テクニカルエリアを採用する。

(4) 使用球は公認球(5号)とする。

(5) 本大会において、退場を命じられた選手は、次の1試合に出場することができない。違反行為の内容によっては、大会の規律委員会で、それ以後の処置について決定する。各県大会における退場による出場停止処分の未消化分に関しては、四国大会でも適用される。

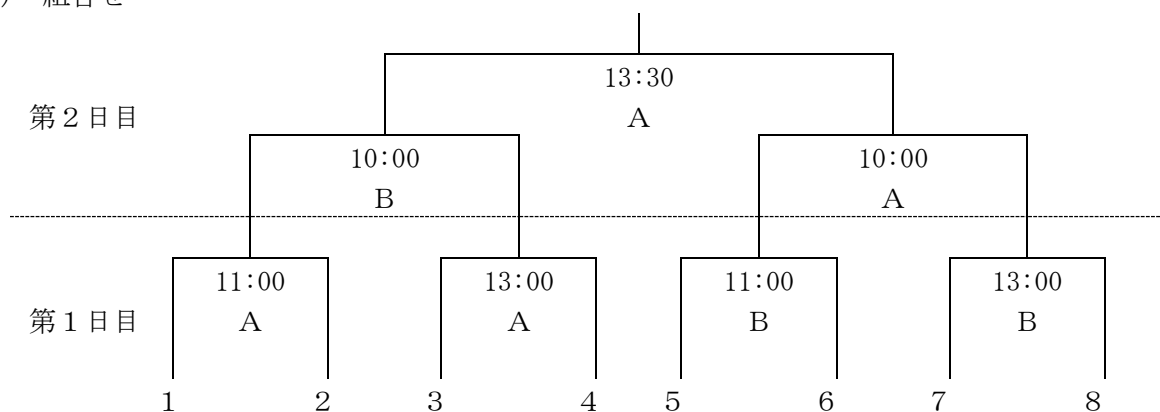
(6) 本大会期間中、警告を2回受けた選手は、次の1試合に出場できない。各県大会における警告の累積による出場停止の未消化分に関しては、四国大会では適用されない。

3 競技方法

(1) トーナメント方式とする。

(2) 試合時間は60分(30分ハーフ)とする。勝敗が決しないときは、10分間(5分ハーフ)の延長を行う。なお決しないときは、PK方式により勝敗を決定する。

(3) 組合せ



4 その他

(1) ユニホームは参加申込書に記入したもの。参加申込書類送付以降の変更は認められない。なお、背番号の変更も認めない。また、必ず正・副と異なる色のユニホーム(シャツ・ショーツ・ストッキング)を用意すること。

(2) 審判員と同一色または類似色(黒または紺)のユニホームをシャツに用いることはできない。なお、ショーツとストッキングは黒または紺のみでも可とする。ゴールキーパーについても同様である。

(3) シャツの前面・背面に参加申込書に登録された選手番号を付けること。ショーツの番号については、付けることが望ましい。なお、番号は1番から99番までとする。

(4) 雷発生の危険性が高い場合は、直ちに試合を中断し、その後の処置については、本大会の専門部で決定する。

(5) 今大会は新型コロナウイルス感染防止対策を実施した上での開催とする。また開催県の現状に沿って、その時期に適した注意事項等の説明文については別紙にて説明する。

【ハンドボール】

1 参加規程

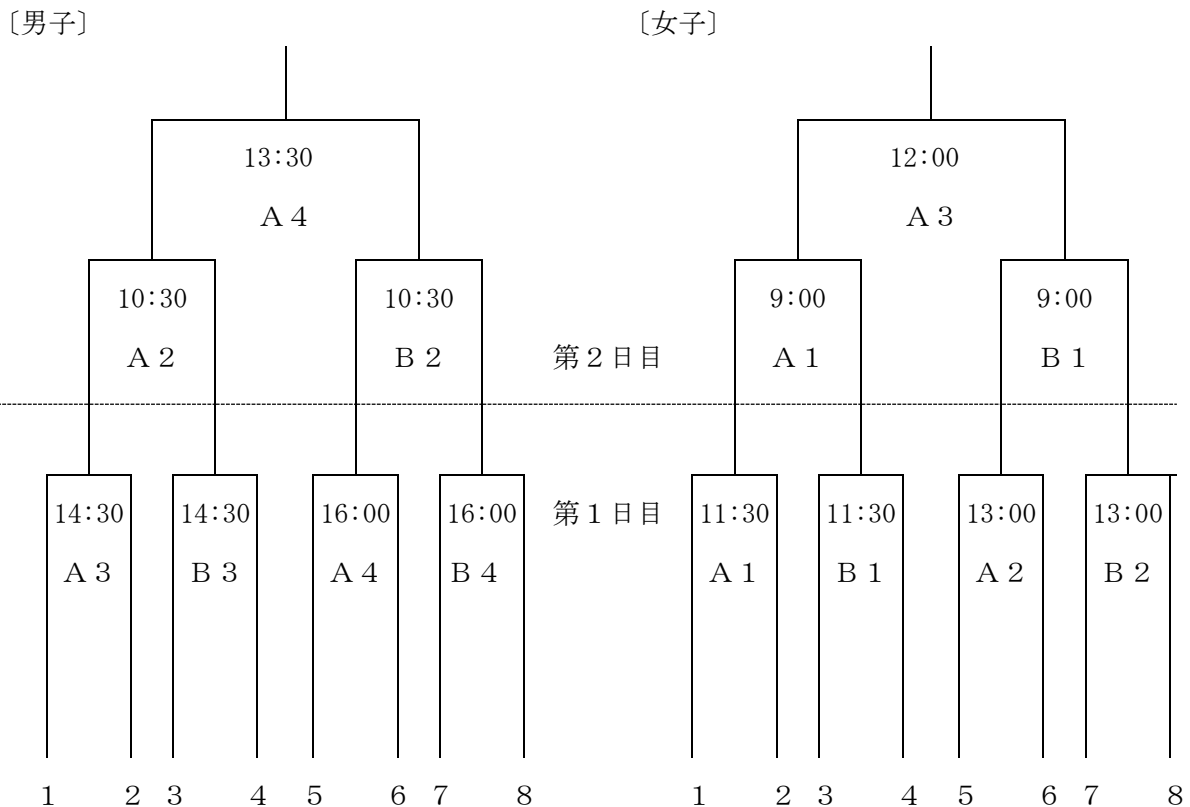
- (1) 各県男女2チームとする。
- (2) 選手15名以内、役員4名以内。
(役員とは、監督1名、役員3名とする。当該校教職員及び部活動指導員であり、外部コーチは学校長が認めた者でなければならない。)

2 競技規則

- (1) (公財)日本ハンドボール協会競技規則(当該年度規則)による。
- (2) 競技時間 25分-10分-25分
 - ① 延長戦は、準決勝戦までは第一延長のみとし、その後は7mTCとする。
 - ② 決勝戦は、正規で行い、決しない場合は7mTC(5人)とする。
- (3) ユニフォームは、コート上でCPとGKの4色が判別できるものを用意する。
- (4) 申込後の選手変更は、「変更届」に記入の上、監督会議前に本部に提出すること。
- (5) ボールは、(公財)日本ハンドボール協会検定2号球(手縫い黄色)を使用する。
- (6) 館内で松やに、松やにスプレーの使用を禁止する。両面テープの使用は認める。

3 競技方法

- (1) トーナメント方式とする。
- (2) 組合せ



【軟式野球】

1 参加規程

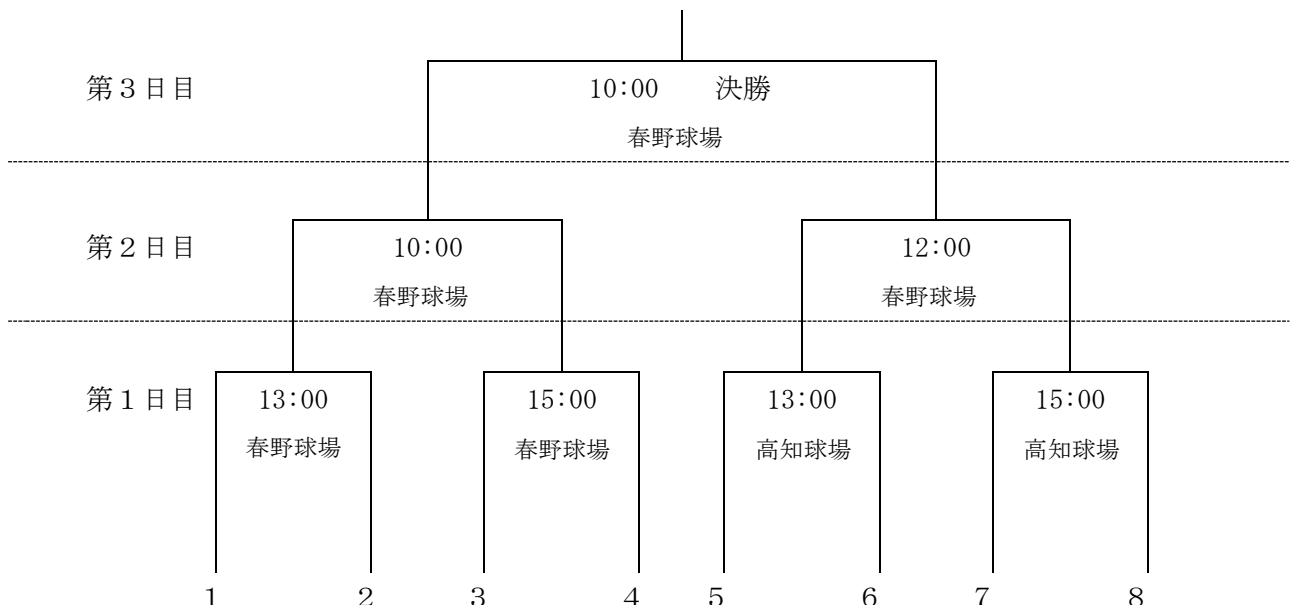
- (1) 各県2チームとする。
- (2) 1チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む）とする。この他に教員を2名追加することができる。但し外部コーチが入る場合は、1名とし、計21名以内とする。なお、監督は背番号30をつけるものとする。（部活動指導員は、教員と同様の登録で認識する）

2 競技規則

- (1) 当該年度公認野球規則及び大会特別規定による。
- (2) 大会特別規定は、別に定める。
- (3) 使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認M号球とする。
- (4) その他の使用器具は、(公財)全日本軟式野球連盟公認(JSBBの刻印)のものとする。

3 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合7回戦とする。
- (2) 得点差によるコールドゲームは全試合適用する。
- (3) 7回を完了して同点の場合は、特別延長戦を行う。
- (4) 背番号は1～18とし、原則としてポジション別とする。
- (5) 全試合について大会特別延長戦を適用する。
- (6) 組み合わせ



※ 春野球場…高知県立春野総合運動公園野球場、高知球場…高知市総合運動場野球場

※ 開会式は、行わない。

【大会特別規定】

【試合前】

- 1 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合予定時刻になってもチームが到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 2 第1試合のメンバー用紙交換および攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、メンバー表を持って、本部1名と担当審判員とで打ち合わせをする。(必要部数は6部)メンバー表交換後、先発投手に限り、試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。
- 3 ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- 4 シートノックについては以下の通りとする。
 - ① 時間は5分以内とする。
 - ② 後攻のチームが先に行う。
 - ③ 監督・コーチ・登録選手の他に3名の補助員をつけて行うことができる。ただし、ノッカーへのボール渡しをする者は、必ずヘルメットを着用すること。(サイドノック含む)
 - ④ ノッカーは、選手と同一のユニフォーム・スパイク(色は白または黒、アップシューズ可)を着用する。※コーチがユニフォームを着用しない(外野ノック可)場合はその限りではない。
 - ⑤ 外野へのノックの際、ノッカーは芝生部分を避けて打つ。
 - ⑥ マウンドでの投球練習や守備練習は認めない。
- 5 バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判の確認に応じなければならない。
- 6 試合開始前の挨拶は、両ベンチ前に選手一人ひとりが、1m以上の間隔を空けて整列して行う。

【試合中】

- 7 コールドゲームは、5回表もしくは5回以降7点差の生じた場合に適用する(決勝戦含む)。試合時間の制限は行わない。
- 8 暗黒・降雨・雷などの悪天、日没のため試合続行ができなくなった場合は、原則として再試合にせず、翌日の第1試合に先立って特別継続試合(サスペンデッドゲーム)を行う。
- 9 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- 10 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い野手が、球を投手板近くに置くこと。
- 11 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、素振りを止めること。
- 12 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは7球以内とするが、2回以降は3球とする。
- 13 メガホンの使用は、監督の1つのみとする。※今大会は使用不可とする。
- 14 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
- 15 審判員に対して、規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。
- 16 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとしたとき、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、球を投手に戻させる。

- 17 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判員が必要と認めた場合は、これを許可する。また、投手の投げたボールが打者の頭部に当たった際は、投手のボールの球質・球種に問わずその打者に代走をおくる。臨時代走には、投手・捕手は除くものとする。なお、臨時代走は、当該打者の回復をもって終了はなく、臨時代走がアウトになる・イニング終了・得点するこのいずれかまで行うものとする。臨時代走は、投手・捕手を除く打者前位の者とする。
- 18 試合進行上、打者席を外すことや、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心掛ける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
- 19 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
- 20 危険防止のため、次のことを徹底する。

- ① バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。
- ② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は、走者をアウトにする。
- ③ 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガードと、打者と走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。

- 21 「投手は、同一イニングで投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

[規則適用上の解釈]

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように、留意しなければならない。

- 22 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。
- 23 監督が投手のところに行く回数の制限（ベンチタイム 3度以内）
- ① 「投手のところに行く」とは、監督がタイムを取ってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。投手の方からフェールラインを超えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
 - ② 伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合もあてはまる。
 - ③ ボールデッド中で改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であればあてはまる。
 - ④ 監督が、同一イニングに同一投手のところへ2度目に行った場合、投手は交代となる。但し、交代した投手が他の守備位置につくことは許される。
 - ⑤ 監督は1イニングに同一投手であれば交代なしで1度行くことができる。ただし、試合進行に関わり、必要がないのにタイムを取ることは慎む。
 - ⑥ 相手チームのタイム中に投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ行ったことと見なされる。

- 24 守備のタイムに関わる制限（選手タイム）

- ① 捕手を含む内野手が投手のところへ行き守備のタイムを取る回数は、7イニングの試合にあっては3度以内とする。
- ② 野手（捕手も含む）が投手のところへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方一度として数える。投手交代の場合はその回数に含まない。
- ③ ボールデッドで改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であれば回数に数える。
- ④ 延長戦（タイブレークも含む）となった場合は、2イニングに1度とることができる。
- ⑤ 監督がタイムを取った場合は、選手の取った回数に含めない。

- ⑥ 集まれるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令だけとする。
- ⑦ 試合進行に関わり、必要でないのにタイムをとることは慎む。

25 7回を完了して同点の場合は、次のようなタイブレークを行い、勝敗を決定する。
(勝敗が決するまで継続する)

〈タイブレーク方式〉

継続打順で前回の最終打者を一塁走者とし、二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死一・二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様に、規則によって認められる選手の交代は許される。

26 投手の投球制限

投手の投球制限については、肘・肩の故障防止を考慮し以下のように定める。

- ① 1日の投球数：100球以内 1週間の投球数：350球以内
- ② 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- ③ タイブレークになった場合、1日規定投球数以内で投球できる。
- ④ 牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
- ⑤ 投球数の管理は、大会本部が行う。

27 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督が責任を持って指導すること。

- ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
- ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招いたりするような応援をしない。
- ③ 応援席周辺を散らかさない。ごみは持ち帰る。
- ④ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害したりするような応援はしない。
- ⑤ スタンドでの応援は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、発声・太鼓・メガホン・ペットボトル等のすべての鳴り物の使用、ブラスバンドの演奏を禁止し、拍手のみの応援とする。

【試合後】

28 試合終了は、試合開始前の整列と同様、両ベンチ前に選手一人ひとりが、1m以上の間隔を空けて整列し、挨拶をもってすべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。

29 各チームの監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の日程などを確認する。

【その他】

30 コーチは平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子）または、選手と同一のユニフォームとする。また、ノッカーを兼ねる場合には、上記4④の項目を確認すると共に、背番号29番、28番をつける。ただし、コーチが女性の場合は考慮する。（サングラスは使用しない）

31 コーチは、試合前のノック以外は、ベンチから出ないものとする。

32 選手のテーピングは、皮膚の色に近い色のものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。また、リストガード、サポーター等を使用する場合は、メンバー交換時に本人を帯同し申し出る

こと。
33 イニング交代時などの予備捕手については、ヘルメット・マスクを着用する。また、いかなる時も投球練習を座って受けるときは、安全の為マスクを着用する。

- 34 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツ選手らしく、マナーについては十分に考慮する。
- 35 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
- 36 ベースコーチは、ヘルメットを着用する。
- 37 メンバー交換後から、試合開始前の両チームの整列までの間に、スターティングメンバーが体調不良やケガなどの不慮の事態が生じた場合、メンバー記載の控え選手を交代出場させることができる。その際は、該当チーム監督がベンチから出て審判に直接報告に行く。なお、先発出場を取り下げた選手は、試合復帰が可能な状態になれば試合に出場できる。
- 38 3回、5回終了時に給水タイムとグラウンド整備（3分程度）を行う。

【体操競技】

1 参加規程

(1) 団 体

各県1チームとする。(県大会で優勝した学校を県代表とする。)

チームは同一校4名と補欠2名をもって編成する。(最低構成人数は3名)

(2) 個 人

県大会における個人総合成績上位4名が出場権を得る。

4名の中に団体チームの選手がいる場合、繰り上げとなる。

団体チームがない場合は、個人8名までの出場を認める。

2 競技規則

(1) 日本体操協会制定男子採点規則当該年度版中学男子適用規則を採用する。

(2) 日本体操協会制定女子採点規則当該年度版変更規則I・女子体操競技情報最新版を採用する。

(3) 申込後、選手変更がある場合は、「変更届」を専門部長会で大会本部に提出する。

(4) 競技種目

(男子) ● ゆ か (広さ: 12m平方 時間: 自由演技~70秒)

● あ ん 馬 (高さ: 115cm)

● 跳 馬 (高さ: 125cm 1助走1演技)

● 鉄 棒 (高さ: 275cm)

(女子) ● 跳 馬 (高さ: 125cm 3助走2演技)

● 段違い平行棒 (高さ: 上棒250cm, 下棒170cm<20cmマット>)

● 平 均 台 (高さ: 125cm<20cmマット> 長さ5m 幅10cm 時間~90秒)

● ゆ か (広さ: 12m平方 時間: ~90秒)

3 競技方法

団体総合

男子=3種目(ゆか, 跳馬, 鉄棒)の自由演技の各種目のベスト3の合計とする。

女子=3種目(跳馬, 平均台, ゆか)の自由演技の各種目ベスト3の合計とする。

個人総合

男子=4種目(ゆか, あん馬, 跳馬, 鉄棒)の自由演技 計4種目の合計とする。

女子=4種目(跳馬, 段違い平行棒, 平均台, ゆか)の自由演技 計4種目の合計とする。

4 その他

(1) 男女各2名の審判を各県から帯同する。

(2) 服装は、体操競技にふさわしいユニフォームを着用すること。

- 審判の服装 男：上…白 下…グレー（スラックス）
女：上…白 下…紺（スカート，スラックス）

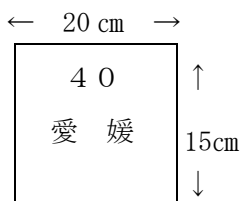
- 監督・チームリーダー・外部指導者は，短パン厳禁。

- (3) 団体チームの演技順序は，種目毎にオーダー表により行う。
- (4) 演技内容は，危険性のないようチームで責任を持つ。
- (5) 背番号を必ずつけること。

大きさ：たて15cm よこ20cm

男 子：白地に黒文字 女 子：白地に赤文字

背番号 県名	団 体		個 人
	正選手	補 欠	県大会下位のものからつける
香 川	10～13	14～15	16 ～ 19
徳 島	20～23	24～25	26 ～ 29
高 知	30～33	34～35	36 ～ 39
愛 媛	40～43	44～45	46 ～ 49



- (6) チームの演技順は，抽選で決める。
- (7) フロアには，選手・監督（チームリーダー）及び各校1名のコーチ（コーチ証表示）が入ってよい。
- (8) 採点間の練習を認める。ただし，移動前の次種目の練習は認めない。
- (9) 演技前のアップ時間
女子：1人跳馬2本，平均台・ゆか30秒，段違い平行棒50秒以内とする。
男子：1人30秒とする。
- (10) 女子個人出場の選手には，1名の音楽係をつけてよい。
- (11) 競技規則に従い，セーフティーマットは薄いものを入れる。薄いものがない場合は，普通のセーフティーマットの使用も可とする。
- (12) 会場により，器械の規格，高さ，マットの厚さ等，完全には対応できない場合がある。

【新 体 操】

—女子—

1 参加規程

(1) 団体

各県2チームとする

1チーム5名とし、3名の補欠を申し込むことができる。*必要最低人数5名

(2) 個人

個人は各県3名とする。

2 競技規則

(公財)日本体操協会制定 新体操競技規則当該年度版ジュニアルール及び、当該年度中体連ルール(ホームページ確認)を適用する。

団体及び個人の選手は、それぞれの学校を示す標識(マーク)を前面ウエストより上につける。
マークの大きさは、3cm×3cm以上の大きさとする。(団体は同一のマークであること)

3 競技種目及び競技方法

(1) 団体は、自由演技のみとし、手具は「ボール5」とする。

(2) 個人は、自由演技のみとし、手具は「クラブ・リボン」とする。

(3) 演技時間 団体女子：2分15秒～2分30秒とする。

(4) 個人：1分15秒～1分30秒とする。

4 その他

(1) 演技順序は、抽選による。

(2) 3名の審判は、各県より帯同する。

(3) フロアーマット(アンダーマット有り)を使用する。

(4) 音響は、各学校で準備する。

(5) 撮影許可書を希望する学校は、必要部数を参加申込書に記入する。

(6) ビデオ、カメラの撮影は撮影許可証を持った人のみとする。(無観客になった場合は変更あり)

(7) 外部コーチは外部コーチ証をつけること。ただし、試合の際、コーチの活動は、公式練習場に限る。

(8) 申込み後、登録選手に変更がある場合は、「変更届」を監督会議にて本部に提出すること。

(9) 団体終了後、個人練習時間までを20分とする。

(10) 審判は、年度ごとに、縦列で右にローテーションする。

(11) 会場掲示用校名を表す旗は、各校一枚のみとし、部旗は学校名など団体名とする。個人名は禁止、全国大会に出場する者の大きさは、当該年度の大会要項に準ずる。

審 判	女子団体 ・ 女子個人 クラブ・リボン		1	2	3	4
		D 1	高知	愛媛	徳島	香川
		D 3	徳島	香川	高知	愛媛
		E 1	愛媛	徳島	香川	高知
E 3	香川	高知	愛媛	徳島		

—男子—

1 参加規程

(1) 団体

各県2チームとする。

1チーム6名とし、2名の補欠を申し込むことができる。

(2) 個人

実施しない。

2 競技規則

(公財)日本体操協会制定 当該年度適用男子新体操規則を採用する。

3 協議種目及び競技方法

(1) 団体は自由演技とする。

(2) 演技時間は3分以内とする。

【バレーボール】

1 参加規程

各県男女各2チームとする。

2 競技規則

(1) 当該年度(公財)日本バレーボール協会6人制競技規則及び(公財)日本中体連バレーボール競技部競技規則に準じて行う。

※ リベロプレーヤーについては、一般と同様の「リベロリプレースメント」ルールで行う。

(取扱いの詳細は、(公財)日本中体連バレーボール競技部のホームページを参照すること。)

(2) ネットの高さは、男子2m30cm、女子2m15cmとする。

(3) ボールは4号球で、人工皮革・カラーボールとする。

(4) ラインアップシートは、試合ごとに作成すること。

(5) ベンチに入る者は、選手12名以内と監督、コーチ、マネージャー(生徒に限る)各1名とする。

監督・コーチは、当該校の校長・教員・部活動指導員であり、引率者としての責任を負う。

コーチが外部指導者(コーチ)の場合は、当該校の校長が認めた者で、外部指導者(コーチ)証をつけること。

※ 監督・コーチの服装は、統一されたものとする。(短パン・ランニングは不可)

(6) ユニフォームについては、規定を遵守すること。

(取扱いの詳細は、(公財)日本中体連バレーボール競技部のホームページを参照すること。)

(7) 3位決定戦は行わない。

(8) 給水のためのタイムアウトを採用する。

(取扱いの詳細は、(公財)日本中体連バレーボール競技部のホームページを参照すること。)

3 競技方法

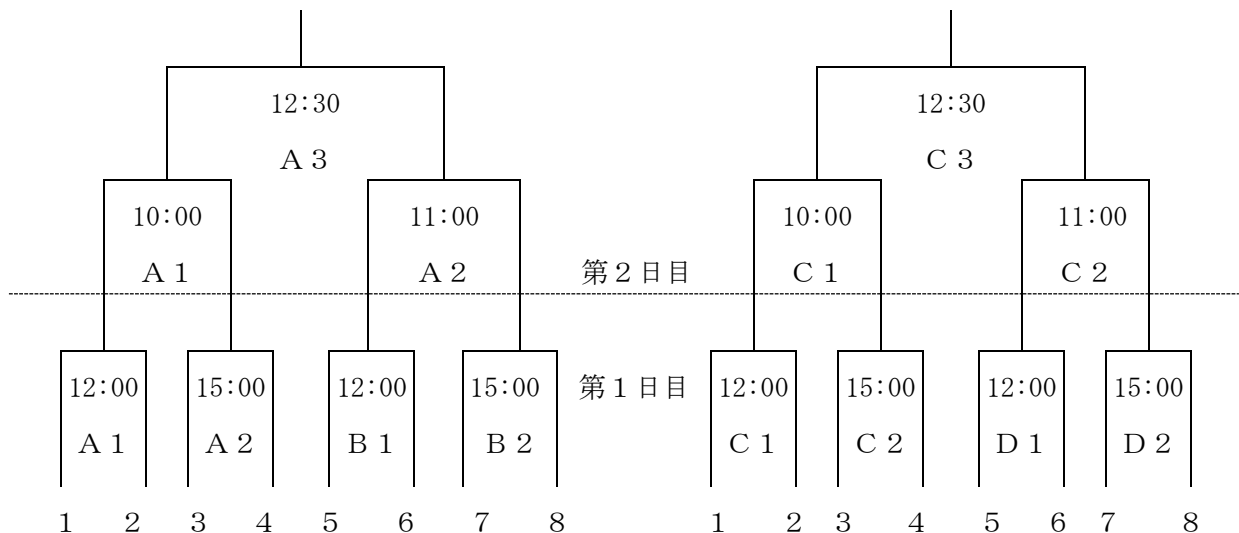
(1) トーナメント方式とする。

(2) 設定時刻は、プロトコール開始時刻とする。

(3) 組合せ

[男子]

[女子]



【ソフトテニス】

1 参加規程

(1) 団体戦

各県男女各2チームとする。各県の団体戦の成績順位で、上位2チームを選ぶ。

(2) 個人戦

各県男女8組。各県の個人戦の成績順位で、上位8組を選ぶ。

2 競技規則

(1) 競技規則は現行の(公財)日本ソフトテニス連盟競技規則及び大会開催要項による。

(2) 使用球は公認球(白)を使用する。団体戦は男女ともアカエムボール、個人戦は男子はダンロップボール、女子はケンコーボールを使用する。

(3) ユニフォームは、上は半袖のスポーツシャツ(襟なし可)、膝より上のパンツ、スカート(ショートパンツ)を着用すること。

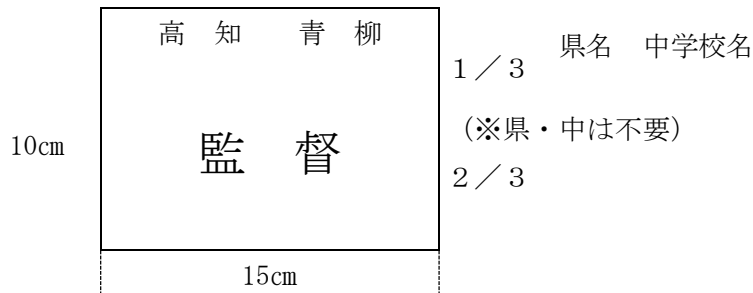
[注意] 服装(用具を含めて)の色等は華美にならないようにし、上記の服装から出るアンダーシャツやスパッツの着用は認めない。

(4) テニスシューズを必ず履くこと。

(5) ソックスの長さについては、くるぶしより上でハイソックスは認めない。

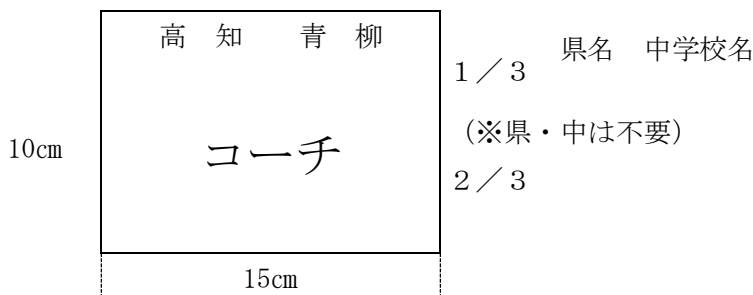
(6) 監督がベンチに入る時は、スポーツウェアを着用し、テニスシューズを必ず履くこと。また、監督は胸にゼッケンを付けること。なお、背中中のゼッケンは不要とする。

[監督のゼッケン]



(7) 外部指導者(コーチ)のベンチ入りを認める。【外部指導者(コーチ)証】を所持すること。

[外部指導者(コーチ)のゼッケン]



(8) 選手変更について

① 個人戦で1名が病気等で出場不可能になった場合は、「変更届」を監督会議で提出する。

② 団体戦で、申し込み後、メンバーを変更し直す場合は、「変更届」を監督会議で提出する。

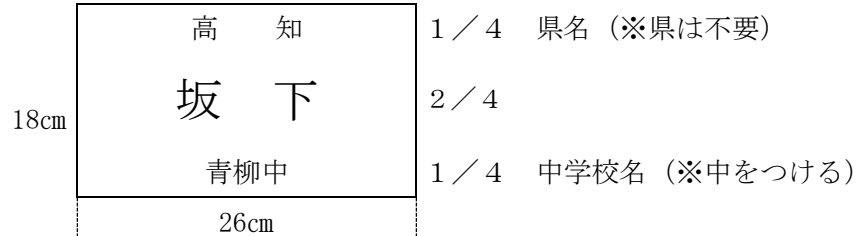
(9) ハチマキには正面に特別な文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。ただし、ハチマキの端の部分に「学校名・名前」を記入してもよい。帽子・サンバイザーもこれに準ずる。

(10) 背中中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中中の中央につける。ただし、四隅を留めるもの

とする。

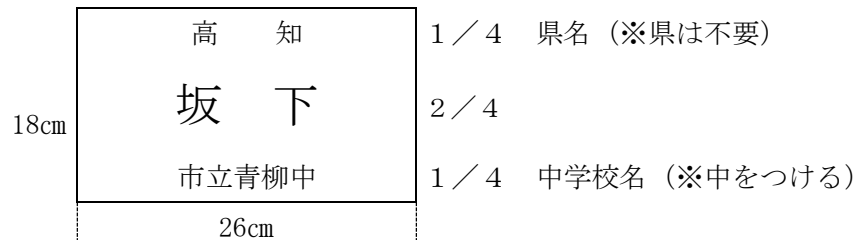
- ① ゼッケンはB5版横（白地）の大きさの布に都道府県名，姓，学校名を3段で記述する。また，県名の「県」の文字はつけず，中学校の「中」の文字はつけるものとする。
- ② ゼッケンの文字は「漢字」，「ひらがな」，「カタカナ」を使用し，文字色は「黒」とする。シャツそのものへのプリントは認めない。

《例1》高知県 高知市 高知市立青柳中学校 坂下 夢之



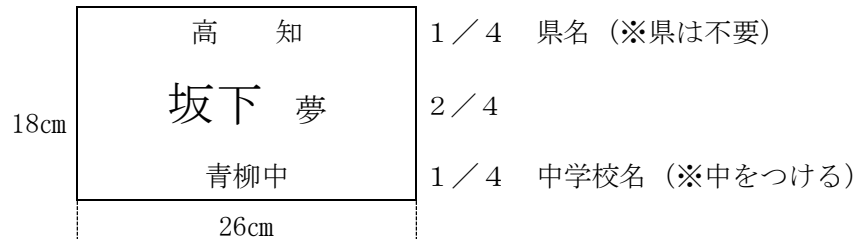
- ③ 県内で同名の中学校がある場合には，区別するために中学校名の工夫をしてもよい。（各地区ごとに望ましい表記をする。）

《例2》高知県 高知市 高知市立青柳中学校 坂下 夢之



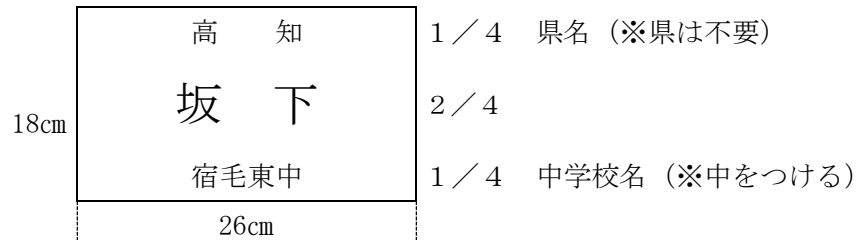
- ④ ゼッケンの文字の位置は《例1》どおりとし，同一校に同姓の選手がいる場合には，名前の一文字を付け加える。

《例3》高知県 高知市 高知市立青柳中学校 坂下 夢之



- ⑤ 中学校名が第一・第二中学校や東・西・北・南中学校のような場合には，学校名を分かりやすくするために学校所在地を付記してもよい。

《例4》高知県 宿毛市 宿毛市立東中学校 坂下 夢之



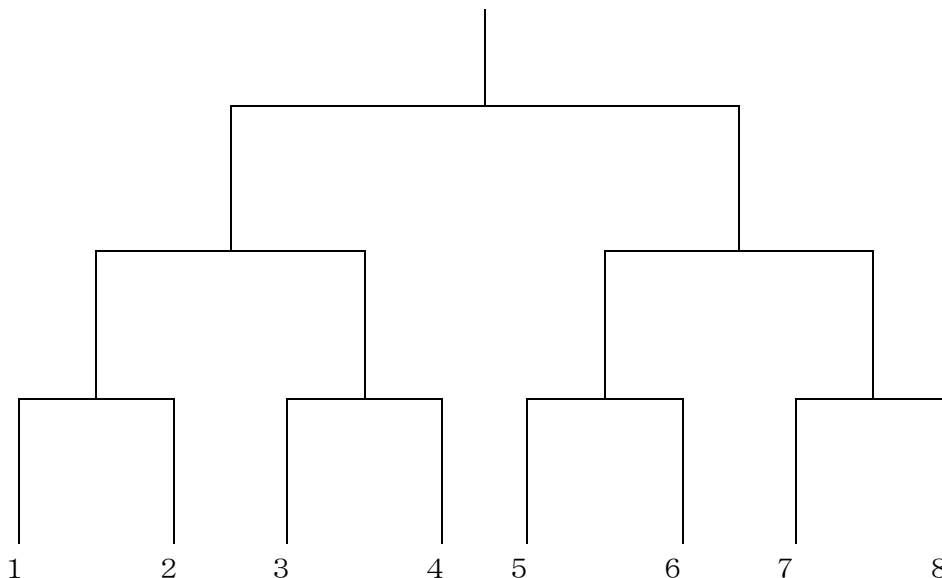
3 競技方法

- (1) 団体戦は各県から選抜された男女各 8 校（監督 1 名と選手 6 名で 1 チーム編成登録 8 名以内）によるトーナメント方式の団体点取法。※必要最低選手数 4 名
- (2) 個人戦は各県から選抜された男女各 32 組によるトーナメント方式。
- (3) 個人戦が重なった場合のみ，当該校の教員（部活動指導員）及び各県ごとに登録された外部指導者（コーチ）を監督として複数付けることができる。
- (4) その際には，監督追加届を提出すること。
- (5) ゲーム数は 7 ゲームとする。
- (6) 試合開始時刻は，次のとおりとする。
（第 1 日目） 11：30～ 団体戦 （第 2 日目） 9：30～ 個人戦

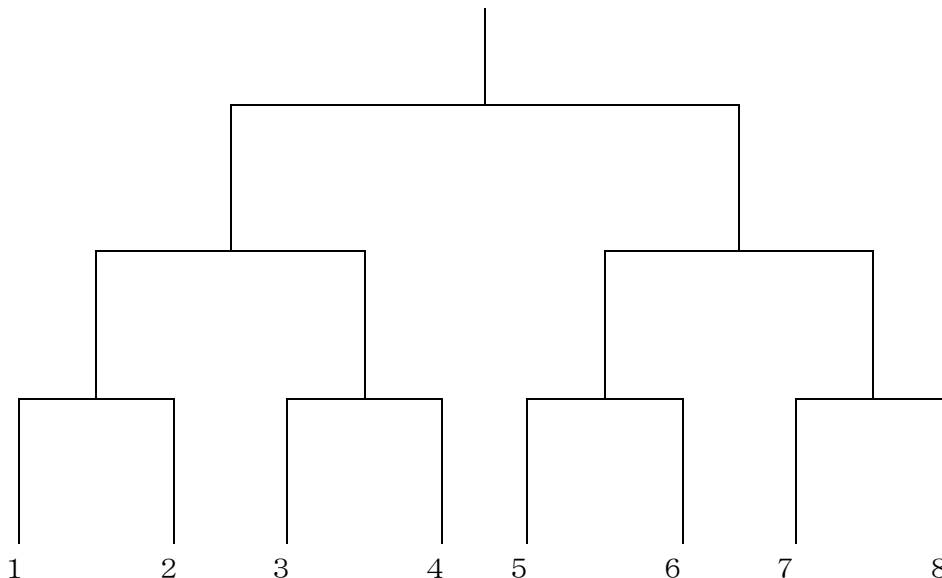
※ 個人第 5 代表決定戦は，準々決勝で敗れた 4 組で抽選を行い，トーナメント方式で決定する。

(7) 組合せ

[男子]



[女子]



【 卓 球 】

1 参加規程

(1) 団体戦

各県男女3チームとする。(選手8名以内, 監督1名で編成)

* 必要最低選手数 6名(全校生徒が卓球部の場合は4名)

* 監督の他にアドバイザーとして, 出場校の教職員(部活動指導員含む)または校長の承認を得た外部指導者(コーチ)1名のベンチ入りを認める。

(2) 個人戦

各県男女上位10名とする。

* アドバイザーとして, 選手1名につき1名のベンチ入りを認める。但し, 校長, 教職員(部活動指導員含む), 生徒, 校長の承認を得た外部指導者(コーチ)のいずれかとする。

2 競技規則

(1) 現行の日本卓球協会が制定したルールによる。

(2) 試合球は40mm, ホワイトボール(硬式認定球)とする。
プラスチック球とする。

(3) ユニフォームは, J T T A (日本卓球協会)のマークが入っている公認ユニフォームを着用する。

(4) ゼッケン

① 出場選手は, ユニフォーム背部に, 白布に選手名(姓)・県名・学校名を記入したゼッケンを必ずつけて出場する。

② ゼッケンは, 日本卓球協会交付のものでもよい。

	25 c m
選手名(姓)	12.5 c m
県名	4 c m
学校名	6 c m

(5) 選手, 監督, アドバイザーに変更がある場合は, 監督者会議で「変更届」を提出すること。

3 競技方法

(1) 試合日程

<第1日目>

① 12:00 ~ 団体戦予選リーグ(5番まで)

② 終了後 団体戦決勝トーナメント1回戦(3点先取)

<第2日目>

① 9:00 ~ 団体戦決勝トーナメント準決勝・決勝及び代表決定戦(3点先取)

② 12:00 ~ 個人戦

(2) 団体戦

- ① 3チームずつのW組, X組, Y組, Z組の4リーグに分けて予選を行う。
- ② 各リーグに同県チームが入らないように抽選し, 試合順序は次のとおりとする。

	(I)	(II)	(III)
W	A 1	B 2	C 3
X	B 1	C 2	D 3
Y	C 1	D 2	A 3
Z	D 1	A 2	B 3

- ※ 試合順序
- 第1試合 (II) - (III)
 - 第2試合 (I) - (II), (III)の敗者
 - 第3試合 (I) - (II), (III)の勝者

- ③ 予選リーグ終了後, 各リーグの1位・2位チームは, 決勝トーナメントへ進出する。
(1日目は, 1回戦まで行う。)

(ア) 各リーグの1位チームから抽選する。

- * 勝ち上がりの多い県から抽選する。(同数の場合はジャンケン)
- * 同県チームは, 左右に分ける。

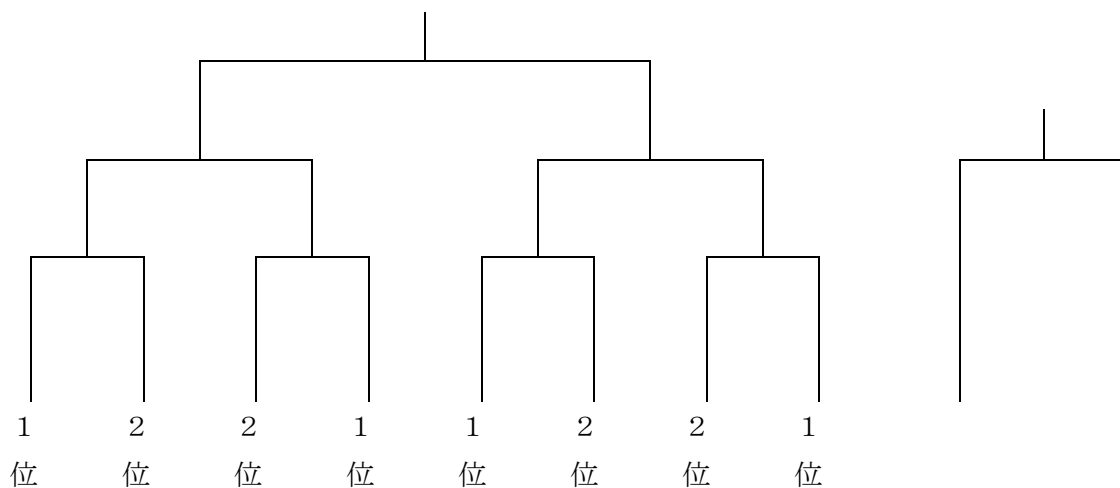
(イ) 各リーグの2位チームは, 次のことに考慮して抽選する。

- * 1回戦での同県対戦は避ける。
- * 1回戦での同リーグ対戦は避ける。

- ④ 2日目は, 決勝トーナメント準決勝より始め, 決勝及び代表決定戦を行う。

<決勝トーナメント>

<代表決定戦>



- ⑤ 4シングルス・1ダブルスで, 3番目にダブルスをおく。
- ⑥ 予選リーグはすべて5番まで行い, 決勝トーナメント・代表決定戦は3点先取法とする。
- ⑦ シングルスとダブルスは重複できない。

(3) 個人戦

シングルスのみとし, トーナメント方式による。

【バドミントン】

1 参加規程

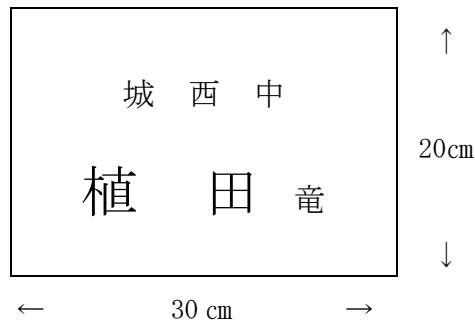
- (1) 各県男女とも次のとおりとする。

	高知	愛媛	香川	徳島	合計
団体戦	2	2	2	2	8
個人戦シングルス	3	3	3	3	12
個人戦ダブルス	3	3	3	3	12

団体構成 … 団体戦チームは監督1名，コーチ又はマネージャー1名，選手5～7名を同一校で結成する。※必要最低選手数5名

2 競技規則

- (1) 当該年度（公財）日本バドミントン協会競技規則・同大会運営規程及び同公認審判員規程による。
- (2) シャトルは，室温に適した（公財）日本バドミントン協会第2種検定合格水鳥球を使用する。
- (3) 外部指導者（コーチ）については，所属校長が認めた外部指導者（コーチ）証を胸につけた者に限る。
- (4) 競技時の服装は，色つき着衣を使用する場合は，（公財）日本バドミントン協会審査合格ウェアとする。
- (5) 上衣の背面中央部には，たて20cm，横30cmの範囲内に校名及び姓の表示をすること。また，黒か紺の日本文字（楷書）で明記すること。同姓の場合は，名前の1字目を小さく入れる。



- (6) コーチは，マッチ（試合）にふさわしい服装で臨む事。チームユニフォーム・シャツ・ポロシャツ・ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチスタイル、バミューダ、ショーツ、スリッパやサンダル等は禁止とする。

3 競技方法

- (1) 男女とも学校対抗団体戦及び個人戦を行う。
- (2) 団体戦，個人戦ともトーナメント方式で行う。
- (3) 個人戦は，第3代表決定戦を行う。
- (4) 団体戦は，複2単1の対抗とし，複・単・複の順に行う。
(同一選手が，単と複，複と複を兼ねて出場できない)

(5) 個人戦は、単と複を兼ねて出場することはできない。

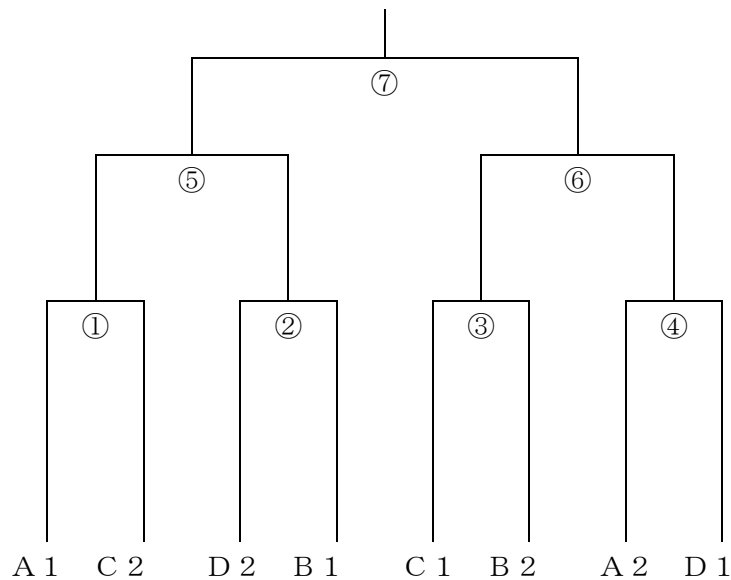
(6) 競技日程は、次のとおりとする。

① 1日目 開会式 団体戦

② 2日目 個人戦 閉会式

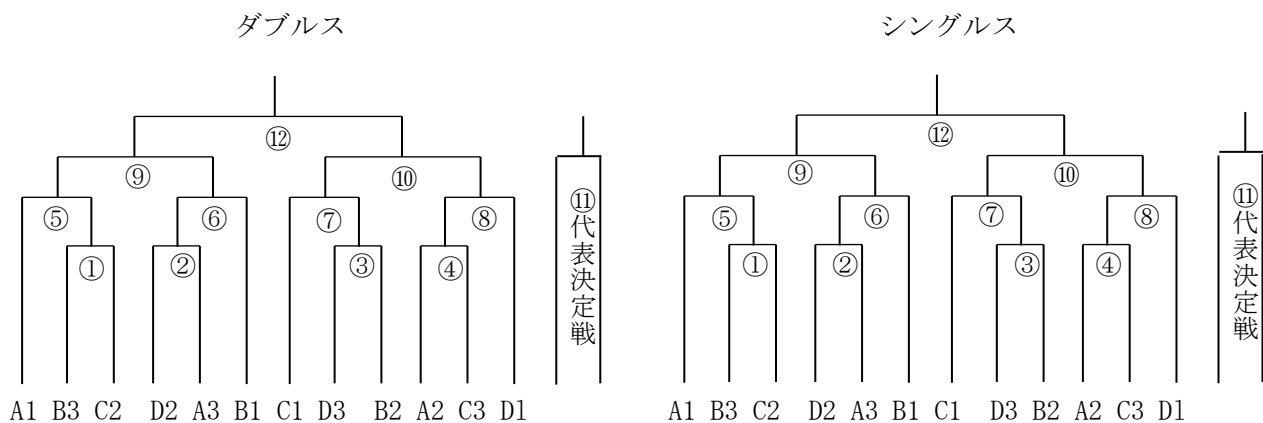
(7) 団体戦の試合方法は、次のとおりとする。

[男子・女子]



(8) 個人戦の試合方法は、次のとおりとする。

[男子・女子]



4 その他

(1) 団体戦における負傷・疾病などによる選手の変更は、「変更届」（理由を記入）を監督会議で提出すること。

(2) 個人戦における選手の変更は認めない。

【ソフトボール】

1 参加規程

各県男女各2チームとする。

2 競技規則

- (1) 本大会は当該年度（公財）日本ソフトボール協会オフィシャル・ソフトボール・ルールによる。
- (2) プレイヤーは18名（スコアラー1名を含む）とし、他にベンチ入りは、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、合計21名以内とする。
- (3) フィールドイングは、競技場に入ることを許されたメンバー（プレーヤーは18名以内）で行わなくてはならない。
- (4) 試合開始予定時刻30分前までに当該球場に集合すること。
- (5) 安全のため、金属製及びセラミック製のスパイクの使用は禁止する。
- (6) 同一チームの監督・コーチ・プレイヤーのユニフォームは、同色・同意匠でなければならない。また、背中と胸下にユニフォームナンバーをつける。監督は30、コーチは31・32、主将は10とする。ただし、引率責任者及び監督は出場校の校長・教員・部活動指導員とする。また、コーチは所属学校の校長または教員、または、校長の承認を得てコーチ登録をした者に限る。所属学校の校長または教員以外のコーチは、胸に指定の記章をつけなければならない。また、コーチにはフィールドイングは認めるが、選手交代・打ち合わせ・抗議等の権限は認めない。また、ベンチから出て指示することも認めない。
- (7) 捕手は、スロートガード付きマスク、捕手用ヘルメット、ボディプロテクター、両足に膝当て付きレガーズを着用しなければならない。なお、準備投球の時、競技場内のいかなる場所で投球練習するときも必ずスロートガード付きマスク、捕手用ヘルメットを着用しなければならない。
- (8) 打者・打者走者・走者・次打者・ベースコーチは、ヘルメットを着用しなければならない。
- (9) 1・3塁のベースコーチは、プレイヤーのみとする。
- (10) チームのメンバーは、声を出したり、動作で投球のコースを教えるてはならない。
- (11) 試合終了後のあいさつですべて完了とし、次の試合のためにベンチを速やかにあける。なお、対戦チーム、バックネット裏へのあいさつは一切行わない。
- (12) 役員テント、本部は大会関係者以外入れない。
- (13) 監督会議には、ユニフォームを着用して出席すること。

3 競技方法

(1) 試合方法は、トーナメント方式とし、男子は抽選順位決定戦を行う。

(2) 試合会場は、次のとおりである。今年度、開会式は行わない。

男子：春野総合運動公園
A・Bコート

女子：春野総合運動公園
C・Dコート

(3) 組合せ

〔男子〕

〔女子〕



4 その他

大会参加申込書提出後の選手の変更は認めない。また、全国大会の参加選手は、ブロック大会に参加した選手に限る。

【 柔 道 】

1 参加規程

(1) 団 体 戦

① チーム編成

各県男女各 2 チームとする。

男子………監督 1 名、コーチ 1 名、選手 7 名以内とする。(3 名以上での出場も認める。)

女子………監督 1 名、コーチ 1 名、選手 4 名以内とする。(2 名での出場も認める。)

② 選手オーダーは、大将より体重の重い順に編成する。交代の選手と入れ替えた場合においても同様に体重順とする。(一度退いた選手の再出場は認めない。)

(2) 個 人 戦

① 各県各階級 4 名で男子 32 名、女子 32 名、計 64 名とする。

[男子]

- 50kg級 (50kg以下)
- 55kg級 (50kg超～55kg以下)
- 60kg級 (55kg超～60kg以下)
- 66kg級 (60kg超～66kg以下)
- 73kg級 (66kg超～73kg以下)
- 81kg級 (73kg超～81kg以下)
- 90kg級 (81kg超～90kg以下)
- 90kg超級 (90kg超)

[女子]

- 40kg級 (40kg以下)
- 44kg級 (40kg超～44kg以下)
- 48kg級 (44kg超～48kg以下)
- 52kg級 (48kg超～52kg以下)
- 57kg級 (52kg超～57kg以下)
- 63kg級 (57kg超～63kg以下)
- 70kg級 (63kg超～70kg以下)
- 70kg超級 (70kg超)

(3) 体重測定

① 団体戦・個人戦出場者の体重測定は、下記の時間内に競技会場で行う。

② 1 日目 8 : 10 ～ 10 : 40 (団体・個人体重測定)

2 日目 7 : 40 ～ 8 : 40 (個人体重測定・前日計量未実施者のみ)

※ 出場者は全身体重測定を受けなければならない。

2 日程

(1) 令和 3 年 7 月 3 1 日 (土)

- ① 開場 8:00
- ② 体重測定 8:10 ～ 10:40
- ③ 専門部長会 9:20 ～ 10:10
- ④ 審判会議 10:20 ～ 10:40
- ⑤ 監督会議 10:50 ～ 11:20
- ⑥ 開会式 11:30 ～ 11:50
- ⑦ 競技開始 12:00
- ⑧ 競技終了後 団体戦表彰式

(2) 令和 3 年 8 月 1 日 (日)

①	開場	7:30
②	体重測定	7:40 ～ 8:40
③	専門部長会	7:50 ～ 8:10
④	審判会議	8:20 ～ 8:40
⑤	監督会議	8:50 ～ 9:20
⑥	競技開始	9:30
⑦	競技終了後 個人戦表彰式及び閉会式	

3 競技規則

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定（当該年度の新ルール）及び国内における「少年大会特別規定」による。
- (2) (公財) 講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。女子の黒帯使用は、白線なしの黒帯を使用すること。
- (3) 柔道衣は白色とする。

4 競技方法

(1) 団体戦

- ① 男女とも、4チームずつのA・B 2リーグに分けてリーグ方式を行う。
- ② 各リーグに各県1位チーム2校、2位チーム2校を含み、同県が入らないように抽選する。
- ③ リーグ方式終了後、Aリーグの1位チームとBリーグの2位チーム、Bリーグの1位チームとAリーグの2位チームを組み合わせて、決勝トーナメント方式を行う。

※選手変更は、基本的に前試合開始までに所定の場所にて受け付ける。

- ④ 試合時間は3分間とし、代表戦における延長戦（ゴールデンスコア）は無制限とする。
- ⑤ 勝敗の判定基準は、「一本」「技あり」又は「僅差（『指導』の差2）」とする。
- ⑥ 優劣の成り立ちは以下のとおりとする。

「一本」＝「反則勝ち」>「技あり」>「僅差」

- ⑦ リーグ方式では、チーム間の内容が同等の場合は引き分けとする。また、リーグ方式の順位は次の方法によって決定する。
 - ア チーム間における勝ち、引き分け、負けの率による。
 - イ アにおいて同等の場合は、勝ち数の合計による。
 - ウ イにおいて同等の場合は、勝ちの内容により決定する。
 - エ ウにおいて同等の場合は、負け数の合計による。
 - オ エにおいて同等の場合は、負けの内容により決定する。
 - カ オにおいて同等の場合は、1名による代表戦を1回行い、決勝トーナメント方式への出場チームを決定する（3校同等の場合は、代表者3名によるリーグ方式を行う）。
- ⑧ トーナメント方式の勝敗は、次の方法によって決定する。
 - ア チーム間における勝ち数による。
 - イ アにおいて同等の場合は、内容により決定する。
 - ウ イにおいて同等の場合は、1名による代表戦により決定する。
- ⑨ 代表戦は任意の選手とし、判定基準は団体戦と同様とするが、3分間の本戦で得点差が無い場合は延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦による勝敗の決定方法は個人戦と同

様とする。

⑩代表選で両者反則負けの場合には、チームは次の試合に進めない。

(2) 個人戦

①男女とも、各階級16名までによるトーナメント方式で行う。但し、参加人数が6名以内の場合はリーグ方式とする。

②試合時間は3分間とし、延長戦（ゴールデンスコア）は無制限とする。

③勝敗の判定基準は、「一本」「技あり」又は「僅差（『指導』の差2）」とする。得点差が無い場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦（ゴールデンスコア）で新たに差がついた時点で勝敗が決する。

5 柔道衣点検

(1)公式計量に引き続き、柔道衣点検を行う。

①（公財）全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣・下穿き・帯）を着用すること。

(2)柔道衣に必ずゼッケン（学校名・名字入り）を縫い付けて出場すること。

①布地は白（晒、太綾）とする。

②サイズは横30～35cm、縦25～30cmとする。

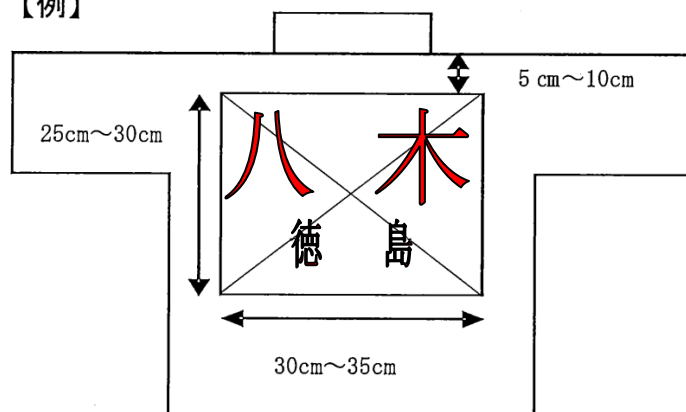
③名字（姓）は上側2/3、学校名は下側1/3とする。

④書体は太字ゴシック体とする（明朝または楷書でもよい）。

⑤文字色は、男子は黒色、女子は濃い赤色とする。

⑥縫い付け場所は襟から5cm～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。

【例】



(3)女子は、上衣の下に白色または白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。

※ Tシャツのマーキングについては、（公財）全日本柔道連盟が定める規程（平成25年4月1日より施行）に準ずる。

(4)柔道衣コントロールの際は、試合時に着けるサポーター等を着用して受けること。

(5)胸マーキング等について、道場名等は不可とする。

6 その他

(1)監督及びコーチは、次のとおりとする。

①監督は、出場校の校長・教員（非常勤講師は除く）又は部活動指導員であること。

②大会では外部指導者（コーチ）をおくことができる。但し、外部指導者（コーチ）は、出場校の校長が認めた者とする。1校1名とし、他校と兼ねることはできない。

※ 大会運営に支障をきたす場合は、退場させることもある。

③監督及びコーチの服装は、審判員に準ずるものとする。

(2)大会参加申込書提出後の選手の変更は、次のとおりとする。

①団体戦選手の変更は、監督会議にて「変更届」（理由を記入）を提出する。【但し、疾病や傷害等、特殊な理由のみとする。】

②個人戦選手・監督・コーチは、申込書提出後の変更は認めない。

(3)皮膚真菌症（トングランス感染症）について、発症の有無を各所属の責任者において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができないこともある。

(4)脳震盪対応について、選手及び指導者は下記事項を遵守する。

①大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。

②大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。なお、至急専門医の精査を受けること。

③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

④大会事務局及び（公財）全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。

【 剣 道 】

1 参加規程

- | | | | | |
|---------|---------------|----|------------|------|
| (1) 団体戦 | 各県男女各2チームとする。 | 男子 | 正員5名（3名以上） | 補員2名 |
| | | 女子 | 正員5名（3名以上） | 補員2名 |
| (2) 個人戦 | 各県代表 | 男子 | 8名 | |
| | | 女子 | 8名 | |

2 競技規則

- (1) (一財) 全日本剣道連盟剣道試合審判規則・細則、並びに令和3年度(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項、主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン(新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判方法)、「神奈川全中」における試合・審判について、令和3年度四国中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項を遵守して実施する。
- (2) 団体戦(予選リーグ戦) 順位の判定は勝ち点による。(勝ち:1.0点、引き分け:0.5点、負け:0点) 同じ勝ち点の場合は勝者数、総本数の順で行う。
- (3) 竹刀の検査(計測、計量)を行う。竹刀の長さは、男女とも114cm(約3尺7寸)以下、重さは男子が440g以上、女子は400g以上とする。竹刀の先は、男女とも長さ50mm以上の先皮を使用し、太さは、先端部最小直径男子25mm以上、女子24mm以上、ちくとう最小直径男子20mm以上、女子19mm以上とする。
- (4) 不正用具を使用した場合は、試合規則第19条-1, 2, 3を適用する。ただし、決勝トーナメント戦は補員を認める。(団体、個人は別ものとする。)
- (5) 補員として申し込みのない者は、選手の位置に入れることはできない。
- (6) オーダーは申し込みの通りで、変更は認めない。
- (7) 団体戦では、一度選手として去った者は、再び選手として出場できない。
- (8) 選手の服装は剣道着及び袴を着用(袴等、刺繍が華美にならないようにすること。学校名、校章等のワッペンや刺繍以外を剣道着の袖につけたり、入れたりしない)すること。
- (9) 選手は、布製の名札を着用する。黒または紺地に白文字とし、学校名「〇〇中」(横)・姓(縦)を明記する。同姓の選手がいるときは、名前の頭文字を入れること。解釈として、別な選手であることが確認できること。
- (10) 「突き技」は禁止とし、反則とすることもある。(技としては反則とする)
- (11) 上段の構えはとらせない。隻腕については、その都度協議する。二刀については、使用させない。「片手打ち」は有効打突としない。
- (12) アイガード・ポリカーボネート面及び化学繊維竹刀の使用を認める。
- (13) サポーターなど(足袋・テーピング、コルセットを含む)については、医療上必要と認める場合に限り使用を認める。使用する場合には各試合場主任に届け出たうえで許可を得ること。また、肘や膝などにつける物を足に使用することや、ゴムや革およびすべり止めを底に貼った物を使用することは禁止する。届け出と違う物を使用した場合は、替えさせる。指先単独のテーピングについては届け出不要とする。
- (14) 監督及び引率者は、出場校の校長・教員・部活動指導員とする。

3 競技方法

- (1) 団体戦
 - ① 4チームずつのA・B2リーグに分けて予選リーグ戦を行う。
 - ② 各予選リーグ戦に各県1位チーム2, 2位チーム2を含み、同県チームが入らないように抽選をする。
 - ③ 予選リーグ戦終了後、Aリーグの1位チームとBリーグの2位チーム、Bリーグの1位チームとAリーグの2位チームを組み合わせて、決勝トーナメント戦を行う。
 - ④ 試合は3本勝負、試合時間は3分とする。勝敗の決しない場合は、引き分けとする。
 - ⑤ 団体戦(予選リーグ戦) 順位の判定は勝ち点による。

(勝ち：1.0点，引き分け：0.5点，負け：0点) 同じ勝ち点の場合は，勝者数，総本数の順で決定する。すべて同数の場合は，任意の代表者による代表者戦を予選リーグ戦終了後に行う。この場合は，試合時間3分で1本勝負とする。

勝敗の決しない場合は，延長を勝敗が決するまで行う。

- ⑥ 決勝トーナメント戦の勝敗は，勝者数，ついで総本数によって決定する。
- ⑦ 決勝トーナメント戦において，勝者（チーム）が決しないときは，任意の代表者による代表者戦を1本勝負で行う。試合時間は3分，勝敗の決しない場合は，延長を勝敗が決するまで行う。

(2) 個人戦

- ① トーナメント戦方式で行う。
- ② 試合は3本勝負，試合時間3分，勝敗の決しない場合は，延長を勝敗が決するまで行う。

(3) 延長戦

個人戦および団体戦代表者戦の延長は，次のとおりとする。

(延長戦は2分ずつ区切る)

試合時間3分 → 延長2分 → 延長2分 → 【小休止（深呼吸をする程度）】 →
→ 延長2分 → 延長2分 → 【面を外しての休息・給水（3分）】 →
→ 延長2分 → 延長2分 → 【小休止（深呼吸をする程度）】 →
→ 延長2分 → 延長2分 → 【面を外しての休息・給水（3分）】 →
→ 試合の続く限り繰り返す

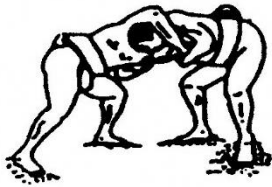
【 相 撲 】

1 参加規程

- (1) 団体戦 各県3チームとする。 選手5名(2名以上) (先鋒・中堅・大将・補員2名)
- (2) 個人戦 各県上位8名

2 競技規則

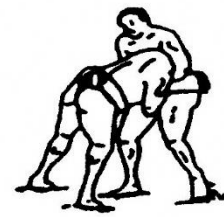
- (1) 時間は、3分を限度とする。
- (2) 禁じ技は、(公財)日本相撲連盟の「競技会規定及び審判規定」による。ただし、次の禁手(技)を加える。反則した場合は取直しとし、再度した場合は審判員の協議により負けとする。
○鴨の入れ首 ○首を脇の下に入れる ○さば折り ○かわずかけ ○反り技
○相手の首をきめる ○極め出し・極め倒し



鴨の入れ首



頭を相手の胸より
下にいれる



頭を相手の脇の下
に入れる



さば折り



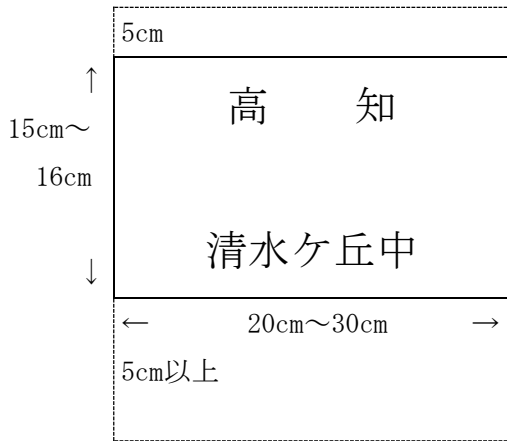
河津掛け



居反り

- (3) 交替選手が出場する場合は、本部の承認を要し、団体戦に限り前選手の位置を継承する。ただし、交替した選手は、再び出場することはできない。また、個人戦に欠場した者は団体戦も欠場とする。
- (4) 立合は主審のかけ声にて立つ。待ったはなしとし、1回目で必ず立つこと。双方とも両手をついて立ち合うこと。
- (5) 競技の審判に対する異議申立ては、担当の審判のみに許される。一度勝ち名乗りを上げて判定した後は、一切異議の申立ては認めない。
- (6) 選手は呼出しに応じて土俵に上がり、土俵の内側において立礼若しくは塵浄水を行い、土俵中央に進み、蹲踞して主審の合図により仕切にはいる。
- (7) 服装はまわし及びアンダーパンツ以外を身につけてはならない。
※ アンダーパンツをつかんではいけない。勝敗に影響する行為があった場合は、審判団の協議とする。
- (8) 負傷者は、包帯、サポーター、足袋等を身につけることができる。但し、支柱入りのサポーター、その他相手に危害を及ぼすおそれのあると認められるものについては、この限りではない。
- (9) 外部指導者(コーチ)・部活動指導員は、当該校の校長が認めた者に限る。
- (10) 手・足のつめを端正にすること。
- (11) タオルを準備しておくこと。

(12) ゼッケンの規定は、次のとおりとする。



- ※ 字画の太さは、1 cm位とする。
- ※ 輪にしないで、まわしにはさむようにする。
- ※ 必ず県名を入れる。
- ※ 下地は単色の布とすること。

3 競技方法

(1) 団体戦

① 団体予選（各県1位チームと他県の2位・3位チームによりリーグ戦）を行い勝率、勝ち点で上位8チームを選出する。もし同率、同点となった時は、代表決定戦を行う。

（3校の場合、トーナメント法で組合せ抽選）

② 上位8チームで決勝トーナメントを行う。

(2) 個人戦

予選リーグを行い、各グループの上位2名が決勝トーナメントに進出する。

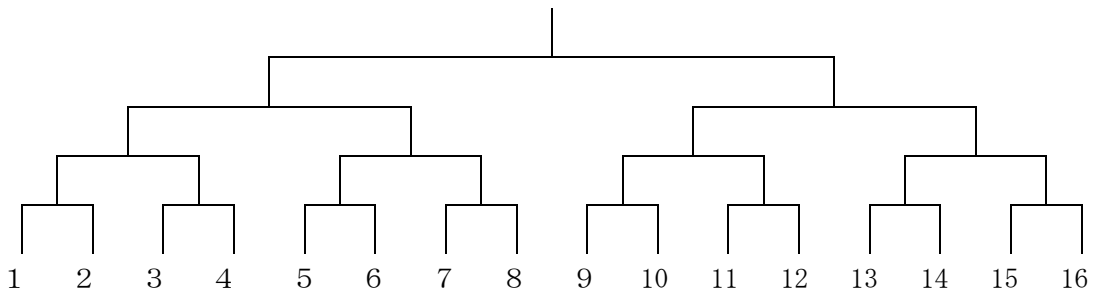
① 8グループによる予選リーグを行う。（県名（A～D）－順位）

aグループ	A-1	B-3	C-6	D-8	eグループ	A-2	D-4	B-5	C-7
bグループ	B-1	C-3	D-6	A-8	fグループ	B-2	A-4	C-5	D-7
cグループ	C-1	D-3	A-6	B-8	gグループ	C-2	B-4	D-5	A-7
dグループ	D-1	A-3	B-6	C-8	hグループ	D-2	C-4	A-5	B-7

※ グループ内で勝率が同じ場合は、決定戦を一度行う。ただし、勝負が決しない場合は、抽選で順位を決定する。

※ 県の事情により、8名以下の出場になった場合は、3名でリーグ戦を行うグループができる。（グループ内で勝率が同じ場合は、上記に同じ。）

② 決勝トーナメント（予選リーグ上位2名、計16名）



※ 各グループ1位通過者より抽選を行う。（奇数番号に振り分け）続いて、2位通過者が抽選を行う。（偶数番号に振り分け）

※ 抽選は、各グループ1位から順番に予備抽選を行い、その後本抽選を行う。各グループ2位についても同様とする。

4 その他

大会参加申込書提出後の選手の変更は認めない。

【 テ ニ ス 】

1 参加規程

(1) 団体戦

各県男女各2チームとする。各県の団体戦の成績順位で、上位2チームを選ぶ。

2 競技規則

(1) 競技規則は現行の日本テニス協会の競技規則及び大会開催要項による。

(2) 使用球は公認球（黄色）を使用する。

(3) ユニフォームは、上は襟付・半袖のスポーツシャツ、下は短パン・膝より上のパンツ、スコート（ショートパンツ）を着用すること。

〔注意〕 服装（用具を含めて）の色等は華美にならないようにし、公認メーカーのものを使用する。

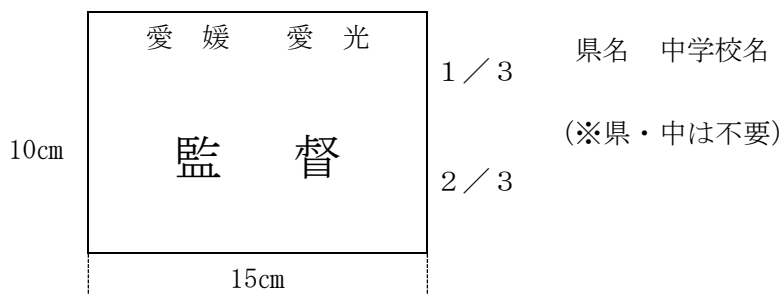
(4) テニスシューズを必ず履くこと。

(5) ソックスは白を基調としたもので、ハイソックスは認めない。

(6) 監督がベンチに入る時は、襟付のスポーツウェアを着用し、テニスシューズを必ず履くこと。

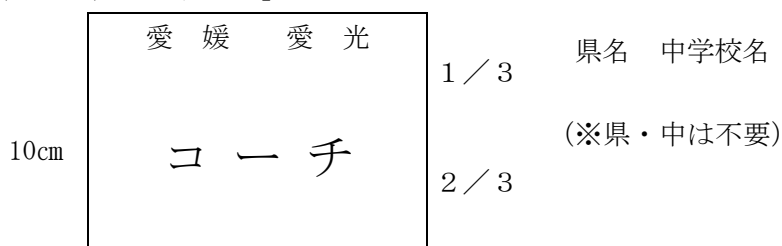
また、監督は胸にゼッケンを付けること。なお、背中中のゼッケンは不要とする。

〔監督のゼッケン〕



(7) 外部指導者（コーチ）のベンチ入りを認める。【外部指導者（コーチ）証】を所持すること。

〔外部指導者（コーチ）のゼッケン〕



(8) 選手変更について

団体戦で、申し込み後メンバーを変更し直す場合は、「変更届」を大会本部に提出する。

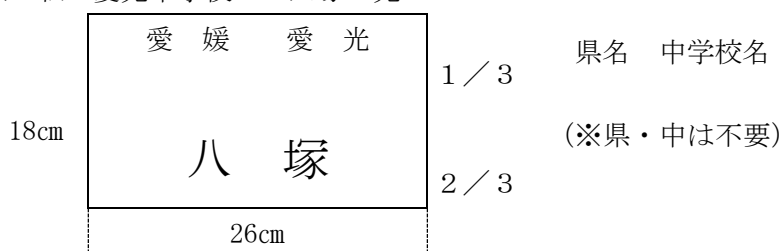
(9) ハチマキには正面に特別な文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。ただし、ハチマキの端の部分に「学校名・名前」を記入してもよい。帽子・サンバイザーもこれに準ずる。

(10) 背中中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中に縫いつけること。着脱しやすいようにホック、マジックテープ、安全ピンで止めることは可とする。

① ゼッケンはB5版横（白地）の大きさの布に都道府県名、学校名、姓を記述する。また、県名の「県」、中学校の「中」の文字はつけないものとする。また、県名と学校名の間は空白とする。

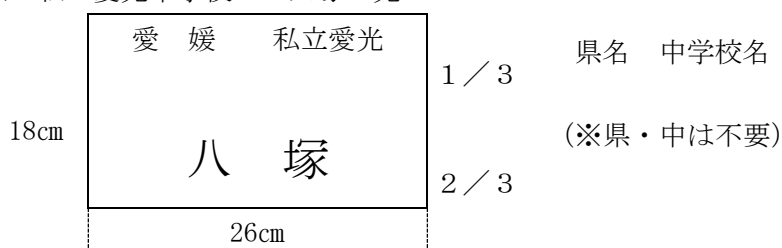
- ② ゼッケンの文字は「漢字」，「ひらがな」，「カタカナ」を使用し，文字色は「黒」とする。
 シャツそのものへのプリントは認めない。

《例1》愛媛県 私立愛光中学校 八塚 光



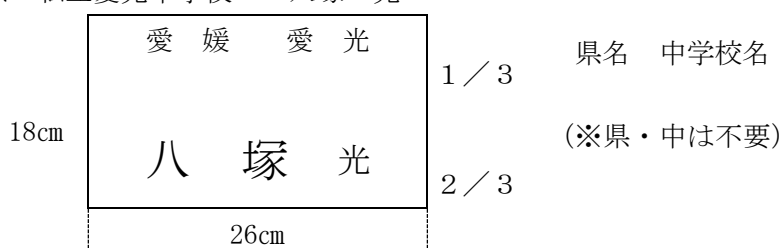
- ③ 県内で同名の中学校がある場合には，区別するために中学校名の工夫をしてもよい。（各地区ごとに望ましい表記をする。）

《例2》愛媛県 私立愛光中学校 八塚 光



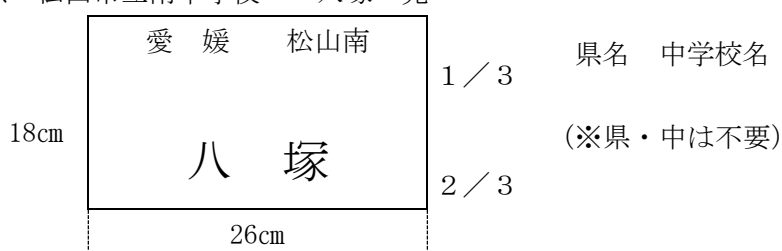
- ④ ゼッケンの文字の位置は《例1》どおりとし，同一校に同姓の選手がいる場合には，名前の一文字を付け加える。

《例3》愛媛県 私立愛光中学校 八塚 光



- ⑤ 中学校名が第一・第二中学校や東・西・北・南中学校のような場合には，学校名を分かりやすくするために学校所在地を付記してもよい。

《例4》愛媛県 松山市立南中学校 八塚 光



3 競技方法

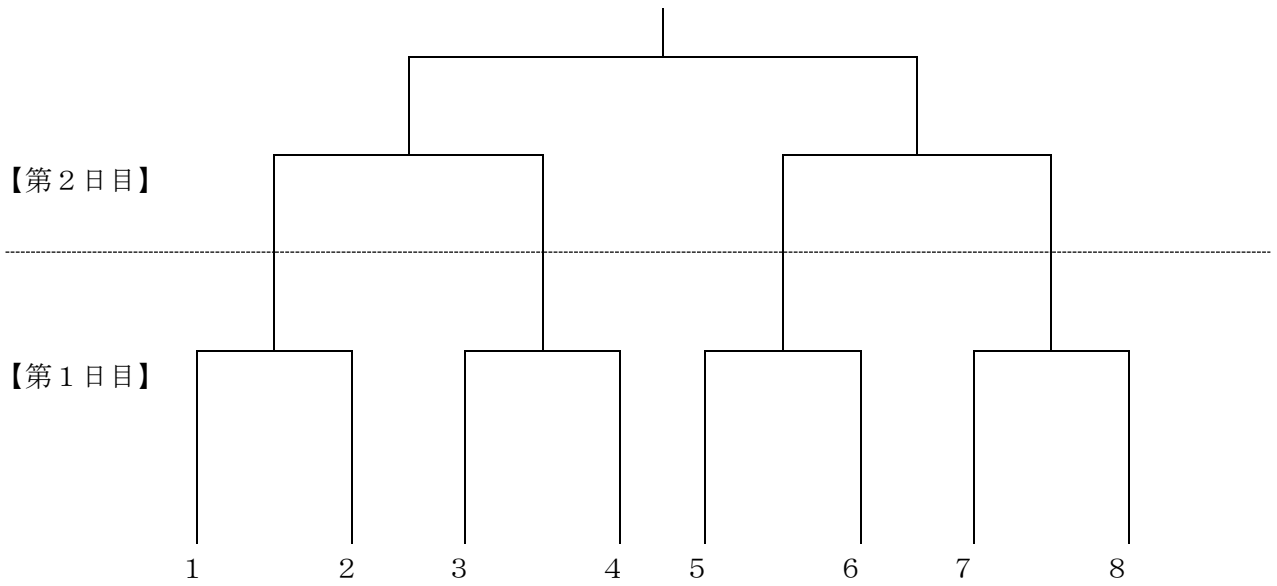
- (1) 団体戦は各県から選抜された男女各8校（監督1名とシングル3，ダブルス2の選手7名で1チーム編成 登録10名以内）によるトーナメント方式とし，3位決定戦までを行う。
- (2) 全試合6ゲームズプロセット（6－6後タイブレイク）
- (3) 試合開始時刻は，次のとおりとする。

競技開始 3日 13：30 ～

4日 10：30 ～

(4) 組合せ

[男子]



[女子]

